

「利他」こそが医療福祉の原点

MSW 高岡 良江

「ロジックモデルは共通言語」と聞いて、腹落ちしました。終わりから考える、獲得したい目的から方法を考えるということだと思うのですが、その緻密さに私は圧倒されました。多様な立場や思想を持った人を友好的に巻き込み、自動的、継続的に成果を上げていける仕組み、「言ってなんぼ」ではなく、「動かして変えてなんぼ」の実現化、ということでしょうか。どのような事象に対しても有効で、その鍵の一つが、六位一体の当事者の参加と、その水平な関係性の担保だと伺いました。真のリーダーシップとは、その関係を実現できる場を創れることでしょうか。

受苦・受難・運命から始まる「物語」は、紛れもなく能動的な行動の軌跡だと感じます。どの瞬間も数ある選択肢の中から選ばれた道だと思うのです。また、同時多発テロ事件の時に、米国の骨髄バンクが見せた懐の深さ、「人間が決めたら良い」という判断と決断、結果的に輸送費を超える寄付が集まったお話は、限界は超えられることを証明してくださっているように感じました。

出来ている地域と出来ていない地域の差を明らかにして、出来ている地域に近づけていく方法論も合理的で、違う思想を持った人に対して説得力を持つものです。というのは、病院でMSWをしていると、「出来ないこと」「家に帰れない」等、医療者も患者・家族も選択可能なモデルを知らずに可能性を狭めていることもあると思うからです。

そして「利己」と「利他」に関しては、「利他」の気持ちを持てることこそが、医療福祉の原点ではないかと考えました。医療福祉に利己的利益を求めた時に、いつもおかしなことが起きる。そうではなくて、お金ではない豊かさに焦点を当てた時に、逆にお金が集まると思います。

「支援してあげている」のではなく「支援させてもらっている」。そのような支援ができる自分自身に、人は誇りと喜びを得ることができます。そして、受けた恩を返すのではなく、別の誰かに恩を送る。そういった循環を創る一人で、私もありたいと思います。